

農政の動き 2016年2月12日～2月17日

◇北極圏の温暖化で日本が寒波に文科省研究班◇

北極圏が温暖化すると、日本が寒波や大雪に見舞われる——。こんな結果が、文部科学省の研究班（浮田甚郎・新潟大教授ら）による研究で明らかになった。北極海の氷の面積は近年、過去最小を記録するなど温暖化の影響が顕著で、浮田教授は「北半球の広い地域で頻繁に寒波に見舞われる遠因となっている」と指摘している。（12日）

◇MA米第7回入札落札率14.5%で依然低調◇

農林水産省は、ミニマムアクセス（最低輸入量、MA）米の2015年度第7回売買同時入札（SBS取引）結果を公表した。予定数量の3万トに対して、落札数量は4353ト（落札率14.5%）で、依然、低調な取引が続いている。（16日）

◇豚マルキン米の見直し要求を森山農相が拒否◇

環太平洋連携協定（TPP）対策で掲げた養豚経営安定対策事業（豚マルキン）の拡充方針に対する米議会の見直し要求に対し、森山裕農相は閣議後会見で「TPP合意に反するものではなく、変更はあり得ない」と明言した。書簡は、米議会の超党派議員67人が佐々江賢一郎駐米大使宛てに発出。豚マルキンの拡充で関税削減効果が薄れるとし、見直しを求めている。これに対し、森山農相は、世界貿易機関（WTO）で認められている対策の範囲内と断じ、要求を拒否する姿勢を強調した。（16日）

◇15年産米1月の相対価格は1万3238円◇

2015年産米の1月の相対取引価格（全銘柄平均）は、前月比0.1%減の60キ。当たり1万3238円となったと、農林水産省が発表した。前年同期比では9.6%高い。（16日）

◇15年産日本ナシの収穫量前年産比9%減◇

農林水産省は、2015年産日本ナシの収穫量は、前年産比9%減の24万7300トと発表した。結果樹面積は3%減の1万2400畝となり、開花期の天候不順で10畝当たり収量は6%減の1990キ。だった。ブドウの収穫量は、5%減の18万500トで、結果樹面積が1%減の1万7100畝、10畝当たり収量が3%減の1060キ。となった。また、荒茶生産量は5%減の7万6400トで、摘採実面積が1%減の3万5600畝で、九州の天候不順で生葉収穫量が4%減の35万7800トだった。（16日）

◇自民党の骨太方針PT外国人材の活用を議論◇

自民党の農林水産業骨太方針策定プロジェクトチームは、人材力強化をテーマに外国人材の活用の現状などを議論した。農林水産省は、外国人技能実習制度を活用した農業分野の受け入れ数は増加傾向にあり、2014年度は1千人増の2万4千人と報告。今国会で、実習期間を5年間（現行3年間）に延長する改正法案の審議が予定されているなどと説明した。出席した農業生産法人の代表は、農繁期だけで雇用できる仕組みの構築などを求めた。（17日）